



## 霞が関だより

## ▶第238回

## ◎文部科学省

## 令和4年度「読書活動推進事業」の取り組み事例について

文部科学省では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、全国的な読書活動を総合的に推進するため、高校生等の不読率の改善、「新しい生活様式」などに対応した読書活動や新学習指導要領を踏まえた学校図書館の機能強化や活性化に向けた特色ある先導的な取り組みを実施するとともに、その成果や課題について検証、分析を行い、効果的なモデル化を試みています。

実践事例紹介の1回目となる今回は、発達段階などに応じた読書活動推進事業を実施した大阪府教育庁市町村教育室小中学校課指導主事の持田裕一様にご執筆いただきました。

## 学校図書館を活用した授業づくりと本に親しみ、学びを深める場づくりをめざして

## —大阪府「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」の取り組みから—

持田裕一

## 1. 現状と背景

大阪府では、平成23年3月に「学校図書館活性化ガイドライン」を策定し、学校図書館の機能の活性化や学校図書館を中心とした読書環境・学習環境の充実を図るとともに、子どもたちの読書活動や学習活動の推進を図ってきた。また、令和3年3月には「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」を策定し、発達段階や生活の場に応じて全ての子どもたちが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備を行うために大阪府全体で一層の取り組みを進めているところである。

一方、これまでの全国学力・学習状況調査や大阪府独自の学力テストとして実施している小学生すくすくウォッチ、中学生チャレンジテストの結果からは「基礎的・基本的な言葉等の知識・理解」や「文章や図・表などの資料から情報を関連付けて読み取り、論理的に自分の考えを構築し、表現すること」に課題があることがわかっている。また、同調査の児童生徒質問紙による結果等から、不読率が高いことも課題として挙げられる。

## 2. 大阪府の取り組み

そこで、大阪府では学習の基盤となる言語能力及び情報活用能力の育成をめざし、学校全体で学校図書館の環境整備を行うとともに、本に親しむ活動や学校図書館を活用した各教科等の授業づくりに取り組み、子どもたち

の学力を向上させることを目的に、令和元年度より「学校図書館を充実・活用するためのモデル校」を指定している。モデル校には担当教員を配置しており、令和4年度は、府内17の小中学校をモデル校に指定した。

大阪府では、市町村教育委員会とともに府の担当指導主事等が直接モデル校を訪問したり、モデル校の担当者が互いに情報交流する場を設けたりしながら、モデル校に対して伴走型の支援や助言を行った。

また、大阪府や市町村教育委員会の支援に加え、学校図書館活用と授業づくりに造詣の深い学識経験者をスーパーバイザーとしてモデル校に派遣し、より専門的な指導・助言を行った。

モデル校では、読書活動の充実を図るとともに、子どもたちが学校図書館の本や新聞、コンピュータ等を活用して、各教科等の中で、集めた情報から必要な情報を見出し、整理、まとめ、発表や交流することで学習内容を深める活動に取り組んだ。

大阪府は、これらモデル校の取り組みや成果を広く普及することで、府内全ての小中学校において、以下の具体的な三つの取り組みの実現を図っているところである。

- ①学校図書館を活用した授業をすべての学年・教科等において年間を通じて計画的・教科横断的に実施
- ②朝読書や家庭読書、公立図書館との連携、情報カードの活用など、本に親しむ機会の増加

③授業で活用しやすい学校図書館の環境整備の実施  
 大阪府のWEBサイトには過年度のモデル校が行ったさまざまな教科や学年の単元授業実践事例を掲載しており、令和4年度においても掲載事例を増やし、令和5年7月現在、小学校150事例、中学校61事例を公開している。また、モデル校ごとに、1年間の取り組みを「学校図書館を活用した授業づくり」と「本に親しみ、学びを深める場づくり」の二つの視点で「取り組み成果リーフレット」としてまとめ、大阪府のWEBサイトに掲載している。WEBサイトでさまざまな事例を広く発信することで、大阪府全体の学校図書館を活用した取り組みの普及を図っているところである。

3. 学校図書館を活用した授業実践事例

モデル校が取り組んだ学校図書館を活用した授業実践事例の一部を紹介する。

- (1) 小学校2年 生活科「やさしい作りの達人になろう」
- ・野菜の植え方や育て方について本から情報を収集。
  - ・情報を付箋に書き出して、表に整理。自分自身で集められなかった情報を友だちに聞いたり、友だちと自分が調べた情報を比べたりしながら、付箋に追記していくことで、新たな気づきや発見をもたせる。
  - ・野菜を植え、育て、観察したことから気づいたことや、疑問に思ったことを、学校図書館の本で調べたり、調べたことを友だちと話し合ったりしながら解決していく活動につなげる。



写真1. 本から得た情報を付箋に書き出している様子

- (2) 小学校4年 社会科「くらしとごみのまつ」
- ・ごみの収集、処理の仕方やリサイクル等によって生まれかわるごみについて、本から情報を収集。
  - ・収集した情報と、ごみを減らすために自分たちにできることを情報カードにまとめ、友だちと意見を交流。
  - ・情報カードには、読み取った内容と自分の考えを分けて書くようにしたり、目次や索引を活用しながら複数の本を読み比べたりしながら整理する。
  - ・さらに詳しく調べたいことが見つかった場合には、インターネットから情報を収集する。
  - ・情報カードをもとに、ごみを減らすために自分にできることは何かを考え、ワークシートを用いて他の人に伝えたいメッセージを書く活動を行う。

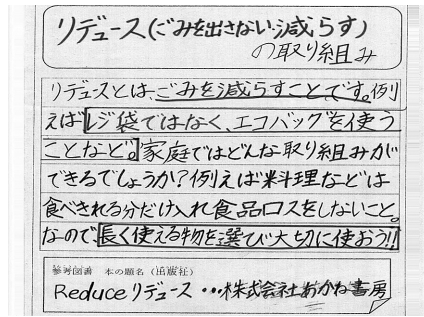


写真2. 児童が書いたメッセージ

(3) 小学校6年 国語科「ようこそ私たちのまちへ」

- ・町の魅力を伝えるパンフレット作りのために、実際のパンフレット等を参考に、掲載したい情報やレイアウトの構成等を考え、本やインターネットを使って必要な情報を収集。
- ・集めた情報や材料を整理して、割り付けを行う。
- ・読んだ人に興味をもってもらえるものとなるよう、友だちどうして助言し合い、リーフレットを練り上げる。



写真3. 児童が作成したリーフレット

(4) 中学校1年 理科「動物の分類」

- ・調べたい動物について、その特徴と分類を本とインターネットから情報を収集し、ワークシートにまとめる。
- ・動物についての基本的な情報は、本を活用して、より正確な情報を収集する。インターネットを利用して情報収集する際は、本に掲載されているキーワードを用いて検索することで、知りたい情報を素早く、的確に得ることができるようにする。

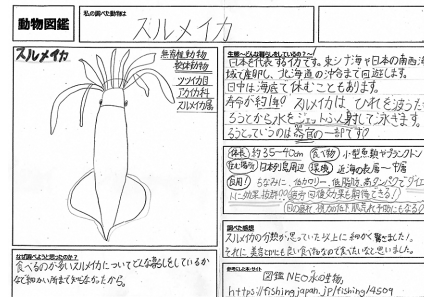


写真4. 生徒が作成した「動物図鑑」の一部

- ・各生徒が作成したワークシートをまとめ、オリジナル図鑑として学級全体で共有する。
- (5) 中学校2年 家庭科「幼児の生活と家族」
- ・幼児の年齢ごとに「あそび」「食べ物」「言葉」などどのように変化するのか、本から情報を収集し、ワークシートにまとめる。
  - ・自分の得たい情報をキーワードにしてメモなどを行ったうえで、題名や目次等を手がかりにして学校図書館にて本を探す。
  - ・複数の本を見比べながら情報収集を行い、ワークシートにまとめる作業を行う。
  - ・調べた情報を友だちと交流し、新たに気づいたことや友だちからのアドバイス等をワークシートに追記することで調べた内容を深める。



写真5. 複数の本を見比べて情報収集を行っている様子

- (6) 中学校3年 保健体育科「健康な生活と疾病予防」
- ・さまざまな感染症に関する情報を本やインターネットから収集し、情報カードに整理。
  - ・学校図書館に関連する本をジャンル別に分けて展示しておく。
  - ・本からは正しい情報を得ることができたり、知りたい情報が見やすくまとめられていたりするという良さを生徒が理解したうえで、本やインターネット等、自ら情報を収集する手段を選択して調べる活動を行う。

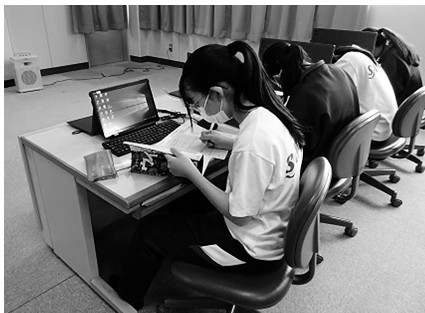


写真6. 本やインターネットを使って調べている様子

#### 4. 本に親しみ、学びを深める場づくり

モデル校では「本に親しみ、学びを深める場づくり」をめざした学校図書館の環境整備に関わる取り組みも進めており、その一部を紹介する。

#### (1) より多様な本に触れながら学習できる環境づくり

学習内容に応じて、学校図書館の本に加え、地域の公共図書館から借りた本も活用して、子どもたちが多様な本に触れながら学習することができるよう工夫している。

#### (2) より身近に本に親しめる環境づくり

子どもたちのすぐ近くに本がある環境をつくるため、廊下に移動図書館を作っている。

また、各学年の廊下に1台ずつブックトラックを設置し、各教科等で学習している内容や場面に応じて関係のある本を学校図書館や公立図書館から集めて並べ、子どもたちが日常的に本に触れたり、すぐに授業で活用したりすることができるよう工夫している。



写真7. 廊下に設置されたブックトラックの様子

#### (3) 本と関わる人々との出会いを設定

公立図書館と連携し、公立図書館の司書や職員をゲストティーチャーとして学校に招き、さまざまな本の紹介や、本の活用の仕方、日本十進分類法などについてわかりやすく子どもたちに説明する機会を設けている。

#### (4) さまざまな本との出会いの設定

教科書で紹介されている本や全国学校図書館協議会選定の本について、学校図書館に配架するとともに、子どもたちの発達段階に合わせて学年ごとに「読書リスト」を作成し、子どもたちがさまざまな本と出会えるようにしている。また、リストでは、読んだ日付と感想等を記入する欄を設け、いつ、どんな本に出会い、どんなことを感じたのかを振り返ることができるようにしている。

#### (5) 表彰による読書意欲の喚起

100ページを超える長文小説を読み終えた子どもを「読破賞」として表彰し、受賞者の賞状を学校図書館前に掲示したり、長文小説を読んで、読書感想文を書いた児童には「レジェンド読破賞」を表彰したりすることで、読書への興味・関心を高める工夫を行っている。

#### (6) 本や学校図書館への興味・関心を高める仕掛け

学校司書や司書教諭等が学校図書館にある本を基にしたクイズを作成し、各教室に掲示する。また、答えを学校図書館の中に掲示したり、学校図書館の本から見つけたりすることができるようにすることで、来館者数の増加や本への興味・関心を高めることにつなげている。



(7) 異学年交流を通じた本に親しむ活動

小学校高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに向けて、お薦めの本を紹介したメッセージはがきを書く活動を行っている。低学年の子どもたちは、紹介された本を読み、感想をはがきに書いて返信することで、異学年の児童どうしで交流しながら本に親しむ活動につながっている。

(8) 探究的な学びを促すイベントの開催

公立図書館主催の「調べる学習コンクール」に学校全体で参加。子どもたちが自ら疑問に思ったことをテーマとして設定し、仮説を立て、公立図書館や学校図書館等で調べる。その後、わかったことをレポートにしてまとめ、作品としてコンクールに提出。子どもたちが作成したレポートの一部は、学校図書館等に展示して、他の子どもたちが読んだり、調べ学習等で活用したりすることができるようにしている。



写真8. 学校図書館に子どもの作品を展示している様子

(9) 新聞のスクラップ記事の配備

学校図書館に配備している新聞を学校司書や司書教諭等が協働してテーマごとにスクラップし、子どもたちが調べ学習等でいつでも活用できるよう、ファイルごとにまとめて学校図書館に配備している。



写真9. スクラップした新聞記事のファイル

(10) 電子書籍の活用

電子書籍サブスクリプションサービスを活用して家庭にタブレット端末を持ち帰り、さまざまな本を読むことができる環境を子どもたちに提供している。これにより、本の持ち運びが容易になるとともに、複数の子どもたちが同じ本を使って読書したり学習したりすることも可能

となり、読書に親しむ機会の増加につながっている。

5. 成果と今後に向けて

モデル校の児童生徒アンケートにおいて、以下の項目で、取り組みを始めた令和4年4月と令和5年3月の結果を比較すると、表のとおり数値の向上が見られた。

アンケート項目	校種	差 (%)
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい	小	+4.2
	中	+16.9
本やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている	小	+4.5
	中	+4.9

表. モデル校における児童生徒アンケートの結果 (R4.4月及びR5.3月)を比較したもの

また、令和5年3月時点において、「家で30分以上、読書をすることがある」と回答した割合は、小学校で5割、中学校で4割であった。また、「本を読むことが好き」と回答した割合は小学校で8割、中学校で7割を超える結果となった。

モデル校の取り組みやアンケート結果から、子どもたちは、日常生活において、わからないことや知りたいことがあったときに自ら本やインターネットなどで調べたり、主体的に学校図書館を活用したりすることができつつあると考える。また、教員は、学校図書館を活用し、子どもたちが調べる際、複数の情報を比較・検討すること、調べたことをまとめて表現・発表する際、相手意識を持って文章を考えたり、根拠をもとに自分の考えを話したりすること等、言語能力や情報活用能力の育成に向けた授業実践を進めていることがわかる。

一方、令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙から大阪府全体の結果をみると、普段、読書を全くしない、所謂、不読率の割合や、本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館を訪れる回数について「ほとんど、または、まったく行かない」と回答した子どもたちの割合が全国より高くなっており、大阪府内の学校全体の課題であることがわかる。

そこで、大阪府では、令和5年3月に「第2次大阪府教育振興基本計画」を策定した。この計画に基づいて、子どもの発達段階に応じた読書活動の一層の推進と、地域や社会と協働した探究的な学習の充実を図り、大阪の子どもたちの言語能力及び情報活用能力の向上をめざして、大阪府、市町村教育委員会、学校が一丸となって取り組んでいく。

(もちだ ゆういち:

大阪府教育庁市町村教育室小中学校課指導主事)  
[NDC10:017 BSH:学校図書館-大阪府]